

# 平成25年度 学校自己評価システムシート ( 県立熊谷高等学校 全日制課程 )

目指す学校像	これからの日本と世界に貢献できる人材を育成する活力に満ちた進学校
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の高い進路希望を実現させるため、学力向上に向けた取組をより一層推進する。</li> <li>2 積極的な情報発信を展開して、県民及び県内中学生が本校の特色を十分に理解できるようにする。</li> <li>3 伝統に培われた教育活動全般を通じて、バランス感覚のあるリーダーの育成を目指す。</li> </ol> <p>※ 生徒が文・武・行 (学習・部活・学校行事) に全力投球する。</p>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	4名
	事務局 (教職員)	6名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2月13日現在)		
年 度 目 標					評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	<p>「進学指導重点推進校」として、国公立大学合格者数増加など進学指導の取組の成果が上がってきている。</p> <p>今後、「リーダー育成・進学指導重点推進校」として一層の学力向上及び難関大学への合格をはじめとする進学実績の向上が期待されている。</p> <p>SSH事業の指定を受け、研究開発課題に向けた取組を計画・実施する。中間評価に適切に対応する。</p>	<p>学力向上への取組と生徒の高い志を育成する取組の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「3年間を見通した進路指導計画」を展開し、更にその計画を可視化して、組織的継続的な進路指導を継続・展開する。</li> <li>「生徒授業評価」等を実施し、授業改善に資する。</li> <li>家庭学習の習慣化への指導を推進する。</li> <li>外部機関との連携を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導計画」に基づき進路指導が展開できたか。</li> <li>生徒アンケートにより授業について検証。</li> <li>生徒アンケートにより学習時間等を検証。各教科より随時課題の提示。</li> <li>現役合格者数、国公立大学80名、難関私立200名。第一志望校への現役合格者数が増加したか。</li> <li>外部機関との連携に参加した生徒数、感想等を検証。</li> <li>SSH運営指導委員会からの評価・生徒のアンケートにより生徒の意識変容を検証。</li> <li>生徒の事業への参加数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「3年間を見通した進路指導計画」を可視化して共通サーバーに置き継続して展開できた。</li> <li>生徒アンケートにより「授業のわかりやすさ」の項目が3年で上昇。</li> <li>学習時間は各学年とも減少。</li> <li>SSHにおける外部機関との連携は20回を超え、全校講演等を除いても、延べ900人以上の生徒が参加した。</li> <li>SSH参加生徒の感想では、71%が科学技術に関する興味・関心・意欲が増した。</li> <li>好奇心(72%)、考える力(65%)問題解決能力(59%)が増した。</li> <li>小中学生対象科学教室を、熊谷女子高、熊谷西高と連携して実施、外部より430名が参加。</li> <li>海外派遣を導入し、13名が参加した。</li> <li>科学系部活動の人数が増えると共に、活発化した。・SSH中間評価に対応した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間の指導経過を共通情報とするため、可視化している。今後も継続する。</li> <li>授業アンケートを有効に活用し指導力の向上、生徒の積極的な授業参加を図る。</li> <li>7～8割以上授業を理解している生徒の割合を全学年とも増やす。</li> <li>多様化した1年生への対応を図る。</li> <li>外部機関との連携を更に継続させる。</li> <li>SSH事業を、学校全体で推進する体制をさらに明確化させる。米国派遣を行い、生徒の感想から効果的であった。</li> <li>全教科で取り組むよう工夫する。</li> <li>生徒の意識の変容を継続的に調査する。</li> </ul>
2	<p>ホームページや土曜公開授業、学校説明会など本校の教育活動を情報発信している。</p> <p>今後さらに、本校へのニーズを把握して教育活動へ反映し、情報発信するとともに、保護者や中学校をはじめとする地域社会と連携し、本校の信頼を一層高める。</p>	<p>積極的かつ効果的な広聴広報活動と地域社会との連携の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土曜公開授業、学校説明会参加者数、アンケートで検証する。</li> <li>ホームページの適切な更新により、教育活動を情報発信する。</li> <li>中学校・塾等に教育活動や入学者選抜等を情報提供する。</li> <li>PTA各支部と連携し、本校をアピールする。</li> <li>地域行事への参加・協力や小中学校との連携を推進する。</li> <li>マスコミ等へ本校の取組を情報提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会への参加者が昨年を上回ったか。</li> <li>土曜公開授業の見学者が昨年を上回ったか。</li> <li>ホームページのアクセス件数が増加したか。</li> <li>地元中学から志願者数が増加したか。</li> <li>昨年以上に地域行事や小中学校行事への参加・協力ができたか。</li> <li>マスコミ等で本校の取り上げ件数で検証。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会への総参加者は、昨年より80名減少した。</li> <li>土曜授業の見学者は、786名で昨年の683名を103人増えた。</li> <li>HPのアクセス件数は、1日平均410件で、昨年より減少した。</li> <li>旬熊掲載106件で毎週更新した。</li> <li>科学教室等地域や小中学校への参加・協力は増加した。</li> <li>講演会や文化祭、SSHなど新聞の掲載が、15件を超えた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生徒募集委員会」を中心に、組織的な募集活動を行った。</li> <li>小学生対象の説明会を検討</li> <li>地域への情報発信を積極的・継続的に取り組むとともに、小中学校との連携もより継続する。</li> <li>塾への説明会や訪問を更に充実させる。</li> <li>週1回のホームページの更新を継続し、内容の改善も図るとともに、新たなHPについても検討を進める。</li> </ul>
3	<p>質実剛健、文武両道、自由自治の伝統の下、教員、生徒ともに活力がある。</p> <p>リーダーとしてバランス感覚のある生徒の育成が期待されている</p>	<p>将来のリーダーとして「学力」「体力」「良識」の調和のとれたバランス感覚のある生徒の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や部活動等の教育活動を通して、人間として幅の広い生徒を育成していく。</li> <li>校内美化や自転車マナーアップ等の向上を図り、事故防止や規範意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者へのアンケートにより本校への満足度を検証。</li> <li>全国大会、関東大会に7部以上出場できたか検証。</li> <li>生徒が主体的に学校行事や生徒集会を運営したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の満足度89.8% (+0.8ポイント)、保護者の満足度90.1%</li> <li>関東大会相当に9部出場した。</li> <li>スクアード・ストレイトや登校指導を行い、自転車のマナーアップ活動が推進された。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>文武行の鼎立を踏まえ、文を第一義に部活動や行事の更なる充実に取り組む。</li> <li>「学力」「体力」「良識」を生徒育成の観点におき、教育活動を推進する。</li> <li>清掃・交通マナー向上に継続して取り組む。特に交通事故防止に努める。</li> </ul>

学 校 関 係 者 評 価		
実施日 平成26年2月20日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に関しては、生徒に刺激を与え、方向性を示すことが大事ではないか。</li> <li>モチベーションを高める授業をさらに充実することが重要である。</li> <li>図書館の開館延長は続けてほしい。</li> <li>昼休みに通路に置いてある机で勉強している生徒の姿に感動した。</li> <li>生徒同士の教え合いや議論によって鍛えられ、成長する。</li> <li>生徒間の話し合いができる施設を検討してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PR方法に工夫の余地があれば検討してみてもどうか。</li> <li>学校からの緊急連絡の在り方を検討してほしい。携帯メールや送信の登録者を増やすとともに、電話による連絡網をもっと活用すべき。</li> <li>部活動の頑張り思いのほか知られていない。もっと外部に発信した方がいい。</li> <li>生徒間の情報網を整備することは考えられないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間力の向上を図ることで、他のスキルをアップすることもできる。</li> <li>通学の自転車マナーについて危機的状況にある。生徒の自覚を促すことも必要だが、駅からの自転車通学許可を見直してはどうか。</li> <li>スクールバスの導入を検討してはどうか。</li> </ul>

